

平成二十二年 度

和歌山信愛女子短期大学附属中学校

入学試験問題 前期日程

# 国 語

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～17ページまでです。  
開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。

解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。

受験番号

【一】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字にそれぞれ直しなさい。

全員そろったか点呼をとる。

仮病を使って休む。

賃貸マンションに住む。

基準を設ける。

勇気を奮う。

ユウビン局で切手を買う。

日本でも最大キボの会場。

リンジニユースが流れる。

親コウコウする。

神社に向かつてオガむ。

問二 次の——線部の同音異義語を漢字に直しなさい。

関係者イガイ入ってはいけません。

イガイに簡単な問題だ。

先生がカテイ訪問にいらっしやる。

結果よりもカテイが大切だ。

君の弟はとてもユウシユウな成績だね。

立派な結果でユウシユウの美をかざる。

問三 次のことわざに近い意味を持つ熟語を□の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

身から出たさび

石の上にも三年

帯に短したすきに長し

石橋をたたいて渡る<sup>わた</sup>

棚からぼた餅<sup>もち</sup>

ア 用心

イ 幸運

ウ

中途半端<sup>とば</sup>

エ 習慣

オ

自業自得<sup>じうごう</sup>

カ

辛抱<sup>しんぼう</sup>

【1】次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

① とういうわけか、今年（一九九八年）のケンブリッジはなかなか暖かくなならない。a 花々は、b 美しく咲き、大学の庭は、いつもどおりの夏のケンブリッジの雰囲気ふんいきを漂たなびわせている。

② 庭のベンチで本を読んでいると、おびただし数のミツバチ、マルハナバチ、その他の昆虫こんちゆうが、花から花へと飛び回っているのがわかる。ミツバチがよく訪れる花もあれば、ほとんど見向きもしない花もある。蜜みつの量や糖分の構成けいせいに微妙びみょうな違いちががあるからなのだろう。

③ 動物行動の研究者である私は植物自体については、あまりよく知らないのだが、植物のやっていることも動物のやることと同じくらいおもしろい。植物と動物の大きな違いは、植物が自分で自由に移動できないことである。それから、時間の歩み方が違う。動物はせかせかと生きているが、植物はゆっくり成長し、ときには何千年も生きる。

④ 自分で自由に移動できないという制約せいやくに対処たいじょするために、植物は驚くほど多様な戦略せんりゃくを編み出している。その一つの例は、受粉のために昆虫などのさまざまな動物を利用することである。いま、私の目の前で蜜集めをしているミツバチも、いわば、植物に利用されている。A 一方的いっぱくたつに利用されているわけではなく、花粉を他の花に運んで受粉を助けるかわりに餌えさとしての蜜をもらっているので、相互さうご扶助ふじょ関係かんけいにある。

⑤ 自分では自由に移動できない植物としては、花粉を何者かによって他の花に運んでもらわなければおしまいである。一つの方法は、風や水にまかせることだ。もう一つは自由に動いている動物を利用することで、そのために動員どうぎんされている動物には、まず八チの仲間、チョウやガの仲間、カブトムシの仲間、ハエの仲間などの昆虫類、次にハチドリ、ミツスイなどの鳥類、そして、小型の哺乳類ほにゅうがある。両生類りやうせいと八虫類はちちゆうは、受粉作業じゆうふんさぎに利用されていないようだ。

⑥ 花は、植物が受粉に利用する動物を引き寄せる広告塔こうかくたである。そこで、利用する相手の感覚器官かんかくくわんによく訴こたえるように、相手

に応じて異なる信号を出している。ハエなどの昆虫類を受粉に使っている植物には、屍肉のような臭いを出しているものが多い。

⑦ 鳥類を受粉に使っている植物の花は、大きく、しっかりしていて、鮮やかな色で、B 昆虫よりも大きな胃袋を満たさねばならないので大量の蜜を出し、臭いが無い。

⑧ ところで、両生類と八虫類はどうして受粉に使われないのだろうか。私が思うに、両生類の口の周囲は常にベタベタと湿っており、花粉を運ぼうとして、いったん花粉を体につけても思うように離れてくれないのかもしれない。また、八虫類は体がうるこで覆われツルツルしているから、花粉そのものが体にくっつかないのかもしれない。これらの理由から、花粉運びの仕事には向いていないように思われる。

⑨ 花の構造は、受粉者がその蜜の報酬を得るためには、必ずからだ花粉だらけになるようにできている。もしもミツバチが、蜜集めを終わって飛び立つ前に、きれいに自分のからだを掃除して、からだについた花粉をすっかり落としてからつぎの花に移るようなことをすると、花としてはまったく損をしたことになる。しかし、ミツバチは、花粉がついても気にしないので、確実に受粉の仕事をしてきている。

⑩ ところが、ハチドリなどの鳥には顔が花粉で汚れるのを嫌うものがある。こういう鳥たちは、花に頭を突っ込まず花の根元の蜜のあるあたりに外からクチバシで穴を開けて、蜜だけ吸って帰ってしまう。これは 確実に裏切りであるが、動けない植物の側 としては対処のしようがない。

⑪ しかし、植物のほうも裏切りをするのだ。その典型が、オフリス属をはじめとするランの仲間である。これらのランの花は、その花が利用するハチなどの昆虫の雌に似ており、雌が出すフェロモンと同じ臭いを出す。そこで、交尾の準備のできた雌がいると間違えた雄がやってきて、この「雌」と交尾しようと無駄な努力を重ねる間に、雄のからだは花粉だらけとなる。結局、相手は雌ではないので、そのうちにあきらめた雄は、また別の「雌」のところへ行って、同じ無駄な行為を繰り返すこととなり、そこで

ランの受精は果たされる。こちらは、ハチのほうがまったく手玉にとられている。自然は、美しいには違いないのだが、騙だましにも満ちているのだ。

12 ふつう、店でハチミツの瓶びんを買つと、四五〇グラム（一ポンド）である。行動生態学者のハインリッチによると一ポンドの蜜を集めるために、ミツバチは一万七三三〇回の蜜集め飛行をせねばならない。二回の飛行は平均二五分で、およそ五〇〇個の花を回る。C、一瓶のハチミツには、およそ八七〇万個の花を回つたミツバチの七二二〇時間の労働が集約されているのである。

13 今度ハチミツを食べるときには、この数字を思い起こし、相互扶助の大切さとともに、自然界でのかけひきにも思いをはせてみよう。

（長谷川 眞理子 『科学の目、科学のこころ』より）

問一 線部 a～e の品詞名を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア 動詞    イ 形容詞    ウ 副詞    エ 助動詞    オ 助詞

問二 本文中の A C に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア そのうえ    イ したがって    ウ ところで    エ あるいは    オ しかし

問三 ——線部 「自分では自由に移動できない」について

そこから生じる問題として、筆者がこの文章で取り上げているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子孫を残すことが難しいという問題
- イ 自ら食料を手に入れることが難しいという問題
- ウ 自由に水を手に入れることが難しいという問題
- エ 十分な量の光を確保することが難しいという問題
- オ 無事に成長する場所を確保することが難しいという問題

で答えた問題点を補うために植物はどのような方法をとっていますか。本文中の言葉を使って四十字以内で答えなさい。

問四 ——線部 「両生類と八虫類は、受粉作業に利用されていない」とありますが、筆者はそれをなぜだと思っていますか。七十五字以内で説明しなさい。

問五 —— 線部 「確実に裏切りである」とありますが、なぜ「ハチドリ」の行動が裏切りになるのですか。その理由を説明したものと最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 花はハチドリに蜜の報酬を与えたくないのに、ハチドリは花の根元に穴を開けて勝手に蜜を奪い取るから。
- イ 花はハチドリに蜜の報酬を与えたくないのに、ハチドリは花粉で顔を汚しても蜜を奪い取るうとするから。
- ウ ハチドリは顔が花粉で汚れることを嫌うため、花から蜜の報酬をもらうことを拒否し、受粉に協力しないから。
- エ ハチドリは顔が花粉で汚れることを嫌うため、花から蜜の報酬を勝手に奪い、受粉に協力しないから。
- オ ハチドリは顔が花粉で汚れることを嫌うが、花から蜜の報酬をもらっているので、受粉には協力しているから。

問六 —— 線部 「ハチのほうがまったく手玉にとられている」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 雄バチが、ランの花の根元のあたりに穴を開けて蜜を吸っているにもかかわらず、受粉には協力しないということ。
- イ 雄バチが、ランの花に飛んできた雌バチと交尾している間に、実は受粉をさせられているということ。
- ウ ランの花が、受粉を成功させるために、雄バチをだまし、何の見返りも与えていないということ。
- エ ランの花が、雌バチと協力して、交尾しようとしている雄バチを裏切り、受粉を成功させているということ。
- オ ランの花が、交尾したいという雄バチをもてあそんで、雌のフェロモンと同じにおいを出しているということ。



問七 本文中に次の文章を入れるとしたらどの段落とどの段落の間が最も適当ですか。段落番号で答えなさい。

哺乳類で受粉の仕事を請け負っているのは、コウモリの仲間が有名だ。コウモリが受粉者であるような花は、彼らが夜行性であるため、夜だけ大きな花を咲かせ、クリーム色系統のものが多く、より大量の蜜を出す。

問八 植物にとって「花」はどのような役割を果たしていますか。たとえを用いて端的に表している言葉を本文中から二十字以内でぬき出しなさい。

【三】千波は死んだ兄（誠）に似ていることから僕（タケル）と交際するようになり、タケルは千波の家にも遊びに行くようになりました。千波の両親は、タケルを誠であるかのように接しています。以下はそれに続く場面です。これを読んであとの問いに答えなさい。

千波ちゃんのお父さんの誕生日は想像どおりのごちそうだった。お父さんの好物の蠣をフライにして、ご飯に混ぜて、鍋にして、たらふく食べた。食後にはみんな揃ってリビングで、千波ちゃんの焼いたチョコレートケーキを食べた。甘い物は別腹だからね。そう言って、千波ちゃんとお母さんは一切れ食べたけど、僕もお父さんもおながいっぱいでないかなか食べられなかった。それでも、僕は千波ちゃんに「せっかく私が作ったのに」と脅されて残さず食べた。紅茶やワインを飲んで、ゆっくり時間が流れるのを感じながら、みんなでくつろいだ。たわいもない話もときれときれになり、僕はそろそろだと小さく深呼吸をした。

「なにか演奏しませんか？」

僕の突然の発言に、千波ちゃんもお父さんもお母さんも a した顔をした。僕は鞆の中からフルーツを出した。ピアノの上のフルーツとはまったく違って、僕のは安っぽくキラキラと光っている。

「それどうしたの？」

千波ちゃんが指さした。

「買ったんだ。安物だけど……。えっと、一緒に演奏しましょう」

僕はフルートをしっかり持って立ち上がった。

「演奏ってみんなまで？」

お母さんが言った。

「ええ。お父さんとお母さんと千波さんと僕で……。僕は千波さんのお兄さんとは違う。お兄さんと似ていることを光栄にも思う

し、悲しくも思う。ただ、僕は千波さんが好きだし、お父さんやお母さんが嬉しそうな顔をされるのを見るのは嬉しい」

僕がこの家でお兄さんのことを口に出すのは初めてだった。もちろん、お父さんやお母さんが、お兄さんのことを口にするのもなかった。誰も誠さんの存在に触れることなく、今まで過ごしてきた。それが突然崩されて、お父さんもお母さんも戸惑っていた。

「演奏って、タケル君吹けるの？」

千波ちゃんが言った。

「吹けるよ。僕がフルートを吹きます」

まだ、みんな座ったまま b 僕を見上げていた。僕は B 差し出がましいことをしているのだろうか。 誠さんに近づこう として、みんなを不愉快にさせているのだろうか。でも、ここまで来て、もう後には引けなかった。

「あの、何か演奏しましょうって言うっても、僕、二、三曲しか吹けないんです。クラブトンなんかどうですか？」

「いいね」

お父さんがようやく言った。

「素敵ね」

お母さんも言った。

「じゃあ」

「ティアーズ・イン・ヘブン？」

千波ちゃんが言った。そのとおり。僕はその曲しか吹けない。千波ちゃんが時々自然に口ずさむ曲。それを練習した。

お父さんが押し入れから出したギターの音合わせを始めた。

「全然手入れしてないからな」

お母さんが「しばらく歌ってないんだもの。恥ずかしいわ」などと言いながらも発声練習みたいなことを始める。リビングが音に満ち始める。それはとても美しい光景だった。

「どの長調で吹けるの？」

千波ちゃんはピアノを適当にならしながら僕に聞いた。

「長調って？」

「音、どの高さかな」

「音符はいっぱいあったけど」

僕が言うと、千波ちゃんは笑って楽譜を開けて僕に見せた。「シャープとか、ほらこいつの付いてた？」

お父さんのギターは音の歪みはあったけど、味があつて泣かせた。お母さんの声はきれいで澄んでいて

C

心に落ちた。

千波ちゃんのピアノは、お父さんのギターにもお母さんの歌にも僕のフルートにも協調していた。僕のフルートはとてもひどいものだったけど、僕たちの演奏はすばらしかった。僕はこんなに美しい音楽を聴いたことがないと思った。

お母さんが「もう一度やりましょう」って言って、千波ちゃんが「今度はもう少しゆっくり吹いてみて」って言って、結局、テイアーズ・イン・ヘブンは四回演奏された。そして、みんなとても満足そうな顔をしていた。お兄さんのいた頃の家族がよみがえったのだろうか。音楽が途切れた後も、リビングはずっと温かく活気づいていた。

最後に、お父さんは玄関口で、ちゃんと僕の顔を見て、僕の名前を呼んだ。

「また来てね。タケル君」

「また送らないといけないからいいよ」って言ったのに、千波ちゃんは僕と一緒に歩き始めた。寒い歩道に二人の息が白く浮かぶ。

「フルート、うまいね」

千波ちゃんが僕のポケットに手を入れながら言った。

「全然」

「すごい良かった。本当に。驚いた」

「結構練習したんだけど、簡単なのしか吹けない。お兄さんみたいにはいかないよ」

「兄はフルートなんか吹けなかったわ」

千波ちゃんがまっすぐ前を見ながら言った。

「え？」

「お兄ちゃんはフルートなんか吹けないの」

「だって、フルート」

ピアノの上には確かに使い込んだフルートがあった。

「あのフルート、お兄ちゃんが友達にもらったの。で、せっかくもらったんだからフルートを始めようとしたんだけど、何回か吹いてみて、d諦めちゃった。お兄ちゃんはどんくさいから音が出せないのよ。フルートつて音を出すの難しいでしょ？

それで向いてないって。簡単に投げ出してしまって、それっきり。だから、お兄ちゃんはまったく吹けないの」

「そっだったの」

僕はここ何日かの努力を思い出して、どっと疲れた。本を読みながら、独学で練習した。近所迷惑にならないようにe練習した。千波ちゃんの言うとおり、音が出なくて大変だった。唇の形から、腹筋の使い方から、必死で練習して何とか音が出るようになった。

「素敵だった」

千波ちゃんと言った。

「あんな素敵な曲、父さんも母さんも私もきつと聴いたことないと思う」

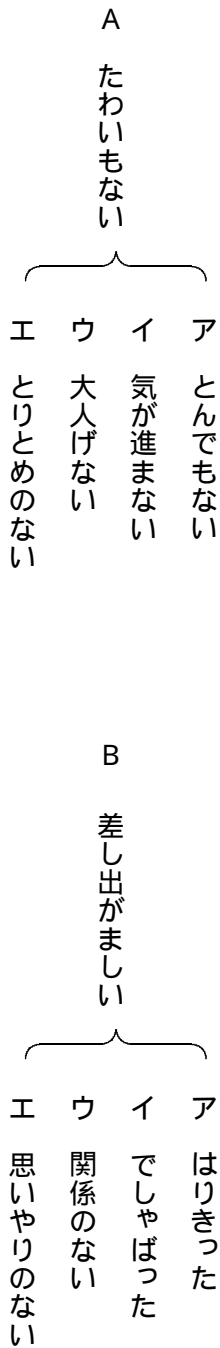
みんなで合奏をして、リビングの空気が動き出したような気がしたのは、家族がよみがえったからじゃなくて、新しくなってしまったからだっただろうか。僕は大きく息を吐いて目をつむってみた。ティアーズ・イン・ヘブンはまだ耳の奥にしっかりと残っている。とにかく素敵な曲が奏でられた。みんながそう思ってる。それでいいのだ。

「タケル君は兄とは全然違う。フルートだって吹ける」

千波ちゃんが嬉しそうに言った。

( 瀬尾 まいこ 『優しい音楽』より )

問一 線部 A・B の言葉の意味として正しいものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。



問一 本文中の空らん 

a
---

e
---

 に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア こっそりと    イ きよとんと    ウ すんなりと    エ あっさりと    オ ぼんやりと

問三 ——線部 「誠さんに近づこうとして、みんなを不愉快にさせているのだろうか」とありますが、なぜタケルはそう思うのですか。その理由を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 誠に近づこうとする行為を干波たちに隠かくしていたことがばれてしまったと思ったから。

イ 誠に近づこうとする行為は、自分がすぐれているということを見せつけることになると思ったから。

ウ 誠に近づこうとする行為は、今日の主役である干波の父の存在を軽かろんじることになったと思ったから。

エ 誠に近づこうとする行為は、音楽を愛する干波の家族に対して無礼だと思ったから。

オ 誠に近づこうとする行為は、誠を亡くしたことを思い出さしてしまうことだと思ったから。

問四 ——線部 「僕はこんなに美しい音楽を聴いたことがないと思った」とありますが、このときのタケルの気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いやいや練習し始めたフルートであったが、千波たちが喜んでくれたので、音楽の目には見えない不思議な力のすばらしさを感じている。

イ 千波との恋をあきらめ、千波の兄の身代わりとして生きていこうとする思いが、フルートの音色を通して千波の家族に届いたという喜びを感じている。

ウ 千波の兄の身代わりとして見てほしくないという気持ちを込めて合奏することを提案したが、それが成功したことで自分と  
いう存在を認めてもらえたと感じている。

エ 千波の兄の代わりに演じようとして千波の家族と合奏したことで、千波の家族が失っていたものを再び取り戻すことができ  
たように感じている。

オ すばらしい音楽は、すばらしい技術が生み出すものだと思ってきたのに、人間味あふれる演奏も人を感動させることができ  
るのだと感じている。



問五 ——線部 「お父さんは玄関口で、ちゃんと僕の顔を見て、僕の名前を呼んだ」とありますが、このときの「お父さん」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア タケルの自分たち家族への思いやりに感動するとともに、今まで誠であるかのように接してきたタケルを、誠とは違う別の人間として認め始めている。

イ タケルがいくら自分たち家族のことを考えてくれても、自分たち家族の深い悲しみはいやされることはないので、タケルに早く帰ってほしいと思っている。

ウ タケルの深い思いやりの気持ちに感謝し、これまで娘との交際を快く思っていなかったが、これをきっかけに娘の交際相手として認めてやるうと思っている。

エ これまで息子を亡くした悲しみから立ち直ることができなかったが、タケルのやさしさに触れることで、タケルに甘えながら立ち直ろうと思いは始めている。

オ 改めて家族との楽しい時間を過ごすことができたのは、タケルの思いやりのおかげであると感謝し、タケルを家族の一員として認めようと思いは始めている。

問六 ——線部 「兄はフルートなんか吹けなかったわ」とありますが、タケルはなぜ千波の兄がフルートを吹けると思ったのですか。その理由を説明しなさい。

問七 ——線部 「素敵だった」とありますが、このときの千波の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア タケルの自分たち家族を思う気持ちにうたれ、兄はフルートを吹くことができなかつたと嘘をつくことで、タケルを喜ばそうとしている。

イ タケルが自分に対する深い愛情の証として一生懸命フルートを練習してくれたことに気づき、タケルと結婚しようという心に決めている。

ウ タケルは自分の演奏を下手だと思っているようなので、上手に演奏できていたことを伝え、自分に自信を持ってもらいたいと思っている。

エ タケルの自分たち家族に対する深い思いやりの気持ちに感動し、改めてタケルは自分にとって特別な存在であると気づき、喜んでいいる。

オ タケルの自分たち家族に対する気持ちには感謝するが、やや押しつけがましさを感じているので、その場をやりすごそうとしている。



--

【一】

問一	① てんこ	② けびよう	③ ちんたい	④ もうける	⑤ ふるう
	⑥ 郵便	⑦ 規模	⑧ 臨時	⑨ 孝行	⑩ 拝む

問二	① 以外	② 意外	③ 家庭	④ 過程
	⑤ 優秀	⑥ 有終		

問三	① オ	② カ	③ ウ	④ ア	⑤ イ
----	-----	-----	-----	-----	-----

【二】

問一	a オ	b イ	c ア	d ウ	e エ
----	-----	-----	-----	-----	-----

問二	A オ	B ア	C イ
----	-----	-----	-----

I	ア
---	---

問三	II	花	粉	を	、	風	や	水	に	ま	か	せ	た	り	、	昆	虫	な	ど	の	自
		由	に	動	い	て	い	る	動	物	を	利	用	す	る	と	い	う	方	法	。

問四	両	生	類	の	口	の	周	囲	は	べ	タ	べ	タ	し	て	お	り	、	花	粉	を
	体	に	つ	け	て	も	う	ま	く	離	れ	ず	、	ハ	虫	類	は	体	が	う	ろ
	こ	で	覆	わ	れ	ツ	ル	ツ	ル	し	て	い	る	か	ら	、	花	粉	が	体	に
	く	っ	っ	か	な	い	か	ら	。												

(5点)

問五	エ	(4点)	問六	ウ	(4点)	問七	7	段落と	8	段落の間
----	---	------	----	---	------	----	---	-----	---	------

問八	受	粉	に	利	用	す	る	動	物	を	引	き	寄	せ	る	広	告	塔		
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

【三】

問一	A エ	B イ	(各2点)
----	-----	-----	-------

問二	a イ	b オ	c ウ	d エ	e ア
----	-----	-----	-----	-----	-----

問三	オ	問四	エ	問五	ア
----	---	----	---	----	---

問六	ピアノの上に使い込んだフルートが置いてあったから
----	--------------------------

問七	エ
----	---



平成二十二年 度

和歌山信愛女子短期大学附属中学校

入学試験問題 中期日程

## 国 語

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～18ページまでです。  
開始のチャイムが鳴ったら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。

解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。

受験番号

【一】次の問いに答えなさい。

問一 次の〱線部のひらがなは漢字に直し、漢字はその読みを書きなさい。ただし、送りがなの必要なものは、送りがなまで書きなさい。

病人をかんごする。

新人賞のこうほに選ばれる。

荷物をあずける。

実力をはつきする。

至福の時を過ごす。

会議の決定を保留にする。

胸中をあかす。

年長者を敬う。

問二 次の( ) ( ) に当てはまる四字熟語を、それぞれ後の  の中から一つずつ選び、漢字に直して答えなさい。

私が思っていることを( ) ( ) に言います。

どんな質問にも( ) ( ) な先生は答えてくれる。

初対面ながら、昔からの友達のように( ) ( ) した。

迷宮入りすると思われていた事件が( ) ( ) 解決した。

新学期になった。( ) ( ) がんばるつ。

問三 次の 〃 の——線部と同じ働きものをそれぞれア〜エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

いっちょういっせき      りろせいぜん      はくがくたさい      きゅうてんちよっか  
たんとちよくにゆう      しんきいつてん      いぎとつじつ

秘密のある顔をしているね。

ア 君は走るのがはやいね。  
イ 美しい桜の花が咲いた。  
ウ 父の書いた絵をかざる。  
エ ほんの少しだけ食べる。

あの人はとても積極的だ。

ア 昨夜本をたくさん読んだ。  
イ そんなことはきらいだ。  
ウ 好きな果物はみかんだ。  
エ 今日は寒くなりそうだ。

この部屋には何も無い。

ア 水道はまだ使えない。  
イ 寒さはきびしくない。  
ウ なさけない思いをした。  
エ 歯ごたえのないお菓子。

母のことが案じられる。

ア 図書館で調べられる。  
イ 先生が教室に来られる。  
ウ 川に捨てられる。  
エ 秋の気配が感じられる。

今夜あたり、海は荒れよう。

ア 明日は晴れるようだ。  
イ 一緒にお弁当を食べよう。  
ウ 母もきつと喜んでくれよう。  
エ このようにして下さい。



【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

現在、環境問題がさまざまに議論されています。一口に環境問題と言っても、地球温暖化・オゾン層の破壊・熱帯雨林の減少・酸性雨・有機化合物や有毒金属による地球汚染など、多くの問題にわたっており、対策も個々の問題に応じて異なっています。逆に、原因はただ一つです。人間の生活の営みが、環境問題を引き起こしているからです。地上に人類が現れて以来、地球環境は汚染され続けてきたと極論を言う人もいます。実際、人類の手で多くの種が絶滅させられました。しかし、人類も自然の中に生まれてきた生物の一つですから、その活動が環境に影響を与えるのは必然なのかもしれません。

ただ、人類は生産活動を行うという点で他の生物とは異なった存在です。そして、自然ではつくり得ない物質を大量に生産し、その大量消費を行う人の営みこそが環境破壊の根本的な原因であることはだれも否定することはできません。人類は、意識しているかどうかは別として、環境を根本的に変えかねない事態を招いているのです。

かつては、「環境は無限」と考えられていました。A、環境の容量は人類の活動に比べて圧倒的に大きく、すべてを吸収処理してくれると思ってきました。B、廃棄物を平気で海や空に捨て、森林を切り、海や湖を埋め立て、ダムを造ってきました。しかし、環境が無限でないことを、さまざまな公害によって学んできました。また、陸にも海にも砂漠化が進み（海にも砂漠化が進み、海草が枯れています）、自然の生産力が落ち始めています。確かに、このまま消費生活を続けると、地球の許容能力を超え、カタストロフィーが起こるかも知れません。人類の未来は、環境問題の危機をいかに乗り切るにかかっていると一言も過言ではないでしょう。

この環境問題を起こした責任は私たちの世代にあると考えています。自分たちは優雅で非常に便利な生活を送りながら、その「借金」を子孫に押しつけているのですから。借金の最大の象徴は、原子力発電所から出る大量の放射性廃棄物でしょう。電気を使って生活を楽しんでいるのは私たちですが、害にしかならない放射性廃棄物を一万年にわたって管理し続けねばならないのは、私

たちの子孫なのです。C、熱帯雨林を切って大量の安い紙を使っているのは私たちであり、表土が流されて不毛の地となつてしまった大陸や島に生きねばならないのは子孫たちなのです。環境問題は、すべてこのような仕組みをもっています。この点を考えれば、せめて子孫たちの負担を少しでも軽くするような手だてを打っていかねばなりません。

この地球環境の危機に対し、「原始時代のような生活にもどれ」という主張をする人がいます。大量消費が原因なので、それをやめればいいという単純な発想です。D、それは正しいのでしょうか。いったん獲得した知識や技術を捨てて、原始時代の不安な生活にもどれるものなのでしょうか。生産力の低い生活にもどれば、どれほど多くの餓死者が出るのでしょうか。はたしてだが、それを命じることができでしょうか。たぶん、答えは、そんな知恵のない単純なものではないと思います。なすべきことは、現在の私たちの生き方をふり返り、いかなる価値観の変更が必要で、そのためには、科学がどのような役目を果たすべきかを考えることではないでしょうか。

環境問題を引き起こした原因の一つは、現在の生産様式が自然の論理に合っていないことにあります。ある意味で、かんたんに楽なやり方しか採用してこなかったのです。

例えば、現在の生産方式の多くは、工場（プラント）を集中化し、巨大化した設備で大量生産を続けるという方法がとられています。その方が、生産効率が良い、省力化できる、つまり安上がりで大量に生産ができるという経済論理が優先されているのです。そのために、政府が基盤整備に投資を行い、それに合わせて輸送手段を集中し、都市へ人を集めるというふうには、社会構造まで含めて巨大化・集中化にまい進しています。その結果、少量ならば自然の力で浄化できるのに、大量に工業排出物を放出するため、海や空気の汚染を深刻化させたのです。

工場を分散させ、小規模施設とすることが、まず第一歩です。それでは生産力が落ちると反論されそうですが、小規模でも同じ生産力を保つ研究が必要なのです。そのヒントは、科学の技術化は、一通りだけではないという点にあります。E、今までは大規模生産しか考えず、それに適した技術しか開発してこなかったと言えるかもしれません。もうけるという経済論理が、科学

技術の中身を決めてきた可能性があります。「自然にやさしい科学」とは、従来とは異なった、小規模でも高い生産性を持つ原理や技術の発見という意味を込めています。

また、巨大化・集中化は「画一化」につながっています。全国いたる所で、同じ物が売られ、同じテレビ番組が流れ、同じビルが立ち並んでいます。画一化された文化の中で、画一化された生活を送り、画一化された製品に囲まれている結果が、大量消費構造を支えているのです。しかしそれではだめなのです。人間はそれぞれ異なった条件の下で生きています。条件が違うのですからその中で求められる方法も違ってくるのは当然なのです。まず、人はそれぞれが違うのだという認識を持たなければなりません。その上で、それぞれが、固有な文化を生き、独特の生活様式をつくり出す、という価値観の転換が必要だと思います。

そして、そのような「多様性」の中で生きるためには、どのようにして太陽や風や海流や地熱など自然のエネルギー利用を行うか、人工化合物でなく自然物を利用するかなど、やはり「環境にやさしい科学」が望まれることになるのです。

(池内 了『科学の考え方・学び方』より)

カタストロフィー……悲劇的な結末。

まい進……ひたすら進むこと。

ロス……損失。むだ。

問一  A  E に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア つまり      イ しかし      ウ だから      エ むしろ      オ あるいは

問二 —— 線部1「人間の生活の営み」とありますが、環境問題の原因となる「人間の生活の営み」とはどういうことですか。解答さんの形に合うように、本文中から三十字以内でぬき出して答えなさい。

問三 —— 線部2「このような仕組み」とありますが、環境問題はどのような仕組みをもっていると言えますか。解答さんの形に合うように、本文中から四十字以内でぬき出して答えなさい。

問四 —— 線部3「原始時代のような生活にもどれ」という主張」に対して、筆者はどのように考えていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア この主張を大量消費を否定した現実的な発想だと半分認めながら、一度楽を覚えた人間がもう一度厳しい生活にもどることとは不可能だと考えている。

イ この主張を現状を見ていない単純な発想だと否定し、自分たちの価値観を見直して新たな科学のあり方を探していくことが大切であると考えている。

ウ この主張を原始時代の生活を安易に理想化したものであると批判しながらも、この考えを完全に否定することは難しいと考えている。

エ この主張の正しさを認めているため、自分たちの今までの生き方や価値観を見直さなければならないのではないかと考えている。

オ この主張の良し悪しは結論づけることはできないが、人間が生き方をふり返り、科学の役割を考えていくことが大切であると考えている。

問五 —— 線部4「現在の生産様式が自然の論理に合っていない」とはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 小規模生産を目指してゆく過程で、努力をすれば生産力が向上するという考え方が否定されるようになったということ。  
イ 科学技術が大量生産を可能にしていく中で、都市に人々が多くなり、人々の生活の規模が巨大化していったということ。  
ウ 効率良く生産できるという考え方のみが優先され、自然の浄化能力を超えた形で生産力が大きくなっていったということ。  
エ 大量にものを作るという方法を優先し、小規模で効率のいい生産方式を自然に反するものとして否定してきたということ。  
オ 何よりも利益を優先する考え方が開発する技術の内容を大量生産に限定したことで、自然に生産力が上がったということ。

問六 —— 線部5「巨大化・集中化は『画一化』につながっています」とありますが、この状況きょうじょうに対して私たちがしなければならぬことはどんなことですか。本文中の言葉を使って、七十字以内で説明しなさい。

問七 本文の内容に合うものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 環境が有限であることを理解し、大量生産の社会を見直すことで、人類は環境問題の危機を乗り切り、存続が可能になる。  
イ 現在の環境問題の原因は多種多様なものであり、その対応も個々の問題に応じて異なったものになっている。  
ウ 自然界の一部である人間の活動が環境に影響をおよぼすのは当然であり、この先地球が汚染されていくのもやむを得ない。  
エ 自然にやさしい科学を追究するためには、人間がいったん獲得した知識や技術をすべて捨てなければならぬ。  
オ 巨大化・集中化を目指す画一的な技術開発を反省し、小規模でも高い生産性を持つ技術のあり方を考えることが大切だ。  
カ 我々の生活を便利にするために、同じものが大量に作られ、売られている状況は、いつそう促進そくしんされることが望ましい。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

夕食のあいだじゅう、恭介きんすけはきげんが悪かった。きげんの悪い時、恭介はいつも思う。僕はジャングルぼくに住みたい。

「もうすぐ、卒業式ね」

すきやきのなべにお砂糖をたしながら、お母さんが言った。

「そうしたら、恭介も中学生か」

お父さんが言った。

「まだだよ。まだ二月だから小学生だよ」

「でも、もうすぐじゃないか。入学手続きだってすませたんだろ」

「うん」

恭介はぶつちょうづらのまま、しらたきを口いっぱいにはおぼった。

今朝、学校に行ったら、女の子たちがサイン帳をまわしていた。もうすぐお別れだね、とか、さみしいね、とか、そんなことばかり話していた。ひとりが、恭介のところにもサイン帳を持ってきた。

「俺、書かないよ」

「どうして」

「だって、さみしくねえもん」

女の子はきまり悪そうにそこに立っていた。

「何だよ。書きたくないんだからいいだろ」

「もういいわよ。暮林<sup>くればやし</sup>くんになんかたのまない」

女の子はサイン帳をかかえたまま、小走りで自分の席にもどった。みんなの視線が恭介にあつまる。

「ちえっ、何だよ」

恭介はどすと席にすわった。机の上に、一時間めの教科書と、ノートと、ふでばこをだす。ちえっ、あいつも見ていた。ななめ前の方から、暮林<sup>くればやし</sup>くんのいじわる、という顔をして、恭介を見ていた。一時間めは算数だった。<sup>1</sup>担任の大島は男らしくない、と恭介は思う。大島の言葉や態度はいつも恭介を

A

させる。たとえば今日だって、

「問五、暮林くん、やってみてくれるかな」  
なんて言う。

「問五、暮林やれ」

がふつうだと思う。恭介は立ちあがった。

「わかりませーん」

と言う。算数はきらいじゃないけれど、今朝はなんとなくいやな気分だったし、わかりません、<sup>2</sup>例えば先生が自分でやってくれ  
ることがわかっていた。

「わからないのかあ。問四の応用なんだけどなあ」

先生は頭をかきながら、黒板に問題をといてみた。

「これは基礎<sup>せき</sup>だからね。これがわからないと中学に行つて苦労するぞ」

給食は、あげパンと、とん汁<sup>しじ</sup>と、牛乳とみかんだった。恭介は給食当番で、かっぱう着を着て給食をとりに行く。

<sup>2</sup>「やった。とん汁だ」

恭介は、今までとん汁の日に給食当番になったことが一度もなかった。教室のうしろに立って、一人一人の器にとん汁をつぐ。



みんなステンレスのお盆ぼんを持って一列にならぶ。あと三人、あと二人、あと一人。恭介は B した。あいつの番だ。「少すしにして」

あいつが言う。恭介は、なるべく豚肉ぶたの多おほそうなところを、じゃばつと勢いきよくつく。なみなみとつがれたとん汁をみて、あいつはまゆをひそめた。

「少すしにしてって言ったでしょ」

「せんせーっ、野村さんが好き嫌きらいします」

恭介が声をはりあげると、大島先生はまのぬけた声でこたえる。

「それはよくないなあ。野村さん、がんばって食べてごらん」

野村さんは、大きな目できゅつと、恭介をにらみつけた。

お母さんが、恭介のちゃわんに、くたくたに煮にえたすきやきのにんじんを入れた。

「好き嫌いしていると背せがのびないわよ」

実際、恭介は背が低ひかった。野村さんは女子の中でまん中より少し小さく、その野村さんとならんで、ほとんどおなじくらいだった。

「もういらないよ。ごちそうさまっ」

恭介ははしをおいて、二階にあがった。部屋に入るとベッドの上に大の字に横になる。野村さんの顔がうかんでくる。動物でいうならバンビだ、と恭介は思う。三年生の時にはじめていっしょのクラスになって、四年生は別々で、五年生、六年生とまたいっしょになった。野村さんについて恭介が知っていることといえば、保健委員で、とん汁が嫌いで、女子にしては足がはい、ことくらいだった。今朝あんなことがあったから、今日は一日、誰だれも恭介にサイン帳を持ってこなかった。もちろん野村さんもだ。恭

介はベッドからおりて、机のひきだしをあけた。青い表紙のサイン帳が入っている。ちえっ、恭介はひきだしをしめて、もう一度ベッドに横になった。

中学にいつたら生活が変わるだろうなあ、と恭介は思った。勉強だつてしなくちゃいけないし、先生だつて大島みたいなおんきなやつじゃないにきまつている。野球とか基地こつこばかりをやっているわけにはいかなくなる。クラスのみんなもばらばらになつてしまふ。あいつなんか私立にいつてしまふから、なおさら会えない。あーあ。ジャングルに住みたい。

ジャングルに住んだら、と恭介は考える。勉強もない、家もない、洋服も着ない。穴をほつてその中で暮らそつ。ライオンとゴリラを飼おう。狩りをして、その獲物を食べればいい。皮をはいで毛布にしよう。となりのほら穴にあいつが住んでいて、僕があいつの分も狩りをしてやる。僕とあいつのほかには人間は誰もいなくて、猿とか、へびとか、しまうまとか、ベットつぼくない動物だけが住んでるといい。

「あれ」

下駄箱の奥に、白い表紙のノートが入っている。サイン帳だった。

「誰のだろつ」

ぱらぱらとページをめくり、恭介はびくんとして手をとめた。あいつのだ。あいつのサイン帳だ。どのページもみんな、なみちやんへ、で始まつている。なみちちゃんというのは野村さんの名前だった。<sup>4</sup> 恭介は、すのこをがたがたとけつて校庭にとびだした。冬の透明な空気の中を、思いきり走る。かばんがかたかた鳴る。

家にとびこんで、ただいま、と一声になると、恭介は階段をかけあがり、自分の部屋に入った。かばんの中からサイン帳をだす。野村さんのサイン帳。一ページずつ、たんねんに読む。おなじような言葉ばかりが並んでいた。卒業、思い出、別れ、未来。

「おもしろくもないや」

声にだしてそう言って、恭介はノートを机の上にぼんとうった。

その日はそのあとずっと、サイン帳のことが頭をはなれなかった。夕食のあいだも、おふろのあいだも、テレビを見ているあいだも、恭介は頭のどこかでサイン帳のことを考えていた。みんなの前で、僕は書かないよって言ったんだ。書けるわけがないじゃないか。それなのにこっそり下駄箱に入れるなんて、絶対、書いてなんかやるもんか。恭介はいつもより少し早く、自分の部屋にひきあげた。

ドアをあけると、机の上の白いノートがまっさきに目にとびこんでくる。あーあ。やっぱり僕はジャングルに住みたい。ジャングルには卒業なんてないもんな。そりゃあ、中学にいけばいいこともあるかもしれない。あいつよりかわいい子がいて、大島よりぼんやりした教師がいるかもしれない。でも、それはあいつじゃないし、大島じゃない。僕だって、今の僕ではなくなってしまうかもしれない。<sup>5</sup> 恭介は机の前にすわり、青いサインペンで、ノートに大きくこう書いた。

野村さんへ。

俺たちに明日はない。暮林恭介

いつか見た映画の題名は、そっくりそのまま今の恭介の気持ちだった。

次の日、恭介がサイン帳をわたすと、野村さんは、

「ありがとっ」

と言ってにっこり笑った。机のひきだしにしまってある自分のサイン帳のことが、恭介の頭をかすめた。あいつの下駄箱に入れておいたら、あいつは何て書いてくれるだろう。女の子だから、やっぱり思い出とか、お別れとか、書くんだらうか。恭介は、首のあたりがくすぐったいような気がした。教室の中は、ガラスごしの日ざしがあかるい。

「おはよう。みんないるかあ」

教室に入ってきた大島先生が、いつものようにまのぬけた声で言う。もう三月が始まっていた。

(江國<sup>えくに</sup> 香織<sup>かおり</sup>「僕はジャングルに住みたい」より)

問一 線部 a 「ぶつちよづつら」、 b 「まゆをひそめた」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で

答えなさい。

a 「ぶつちよづつら」

- ア 無愛想でふくれた顔
- イ 仏像のような表情のない顔
- ウ 何か考え事をしている顔
- エ ものほしそうな顔
- オ 苦痛を感じてゆがんだ顔

b 「まゆをひそめた」

- ア 心配で暗い顔つきになった
- イ うれしくてほえんだ
- ウ あっけにとられた表情をした
- エ 不快に思っ顔をしかめた
- オ びっくりして目を閉じた

問一——線部1「担任の大島は男らしくない、と恭介は思う」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いつも生徒のことを親身に考え、できないと言えはすぐに手助けしてくれるやさしさに満ちあふれた担任だから。  
イ 「〜かな」「〜ね」など会話の語尾が女性のような口調で、細かいことばかり気にする神経質な担任だから。  
ウ 教師は生徒に対して堂々とした態度をとるべきだと思うのに、下手に出るような情けない態度の担任だから。  
エ いつも生徒の話の話を聞かないひとりよがりな態度が、ばかにされる原因であることに気づかない鈍感な担任だから。  
オ 恭介が他の生徒への注意を要求しても、卒業前という理由からなかなか厳しく指導できない弱気な担任だから。

問三

A

B

に当てはまる言葉として最も適当なものを、後の

の中からそれぞれ選びなさい。

メソメソ	コソコソ	ドキドキ	ヘラヘラ
ガタガタ	イライラ	サバサバ	

問四

——線部2「やった。とん汁だ」とありますが、「恭介」はどつして「やった」と喜んでいるのですか。その理由を説明しなさい。

問五 —— 線部3「ペットっぽくない動物だけが住んでるといい」とありますが、「恭介」がそう思う理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 別れることに臆病おくびょうになっている恭介にとって、いずれ死別する運命にあるペットはともに暮らす動物としてふさわしくないから。

イ 一緒に暮らす動物を守っていかねばならない恭介にとって、ひ弱な小動物のペットはともに暮らす動物としてふさわしくないから。

ウ 自給自足の生活をしたい恭介にとって、いざという時に食料にしづらいペットはともに暮らす動物としてふさわしくないから。

エ 今の生活から離れたいと考はなえている恭介にとって、現実の生活を連想させるペットはともに暮らす動物としてふさわしくないから。

オ ジャングルでは自分の生活を守ることで精一杯ばいの恭介にとって、手間のかかるペットはともに暮らす動物としてふさわしくないから。

問六 —— 線部4「恭介は、すのこをがたがたとけて校庭にとびだした。冬の透ほろ明な空気の中を、思いきり走る。かばんがかたかた鳴る」とありますが、この表現から読み取れる「恭介」の気持ちを四十字以内で説明しなさい。

問七 —— 線部5「恭介は机の前にすわり、青いサインペンで、ノートに大きくこう書いた」とありますが、この時の「恭介」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア みんなは似たような言葉を並べて別れを惜しんでいるが、自分は今の気持ちを印象的な言葉によって表現したい。
- イ みんなは将来を期待していないようなので、わざと投げやりな言葉を目立つように書いて、みんなを奮い立たせたい。
- ウ みんなはおもしろくもなんともないことを書いているけれど、自分ではできるだけおもしろいことを大げさに表現したい。
- エ みんなは心のこもっていない表面的なことしか書いていないだけに、自分は野村さんが喜ぶようなことを書きたい。
- オ みんなは野村さんとの思い出に触れていないが、自分は野村さんと一緒に行った映画のことを書いておきたい。

問八 —— 線部「僕はジャングルに住みたい」とありますが、「恭介」にとって「ジャングル」とはどういう場所ですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 気になる女子と動物に囲まれながら勝手気ままに生活できる、誰もがあこがれる夢のような場所。
- イ 卒業に際して別れなければならない今の先生やクラスメート達と今後も長くつきあっていける場所。
- ウ 今の生ぬるい生活とは正反対の、凶暴な動物と戦いながら生活の糧を得なければならない厳しい場所。
- エ 都会ではなかなか見られない野生動物を観察しながら、あこがれていた自給自足の生活ができる場所。
- オ 自分や周囲がどう変わるかわからない不安から解放され、自分の思いのままに生きていける場所。

問九 この小説で「恭介」はどのような少年として描かれていますか。その説明として適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 先生やクラスメートに対して批判の目を持ちながらも、誰とでも分け隔てなく接することのできる少年。
- イ 学校の勉強は嫌いだ、広い視野と独特の感性を持っている、人間観察にすぐれた、精神年齢の高い少年。
- ウ 好きな異性に対して素直に接することができないなど、自分をうまくコントロールしきれない少年。
- エ 中学進学への焦りからいつも神経をとがらせていて、担任の指導に素直に従おうとしない身勝手な少年。
- オ 待ち受ける新たな環境に対してなかなか積極的になれず、周囲に対して何かと反発してしまふ少年。
- カ 一人の異性のことが気になって仕方がないのに、思いとは逆に彼女を避けようとする内気な少年。





--

【一】

問一	① 看護	② 候補	③ 預ける	④ 発揮
	⑤ しふく	⑥ ほりゆう	⑦ きようちゆう	⑧ うやまう

問二	① 単刀直入	② 博学多才	③ 意気投合
	④ 急転直下	⑤ 心機一転	

問三	① ウ	② イ	③ エ	④ エ	⑤ ウ
----	-----	-----	-----	-----	-----

【二】

問一	A ア	B ウ	C オ	D イ	E エ
----	-----	-----	-----	-----	-----

問二 自然ではつくりに得ない物質を大量に生産し、その大量消費を行うということ。

問三 自分たちは優雅で非常に便利な生活を送りながら、その「借金」を子孫に押しつけているという仕組み。

問四

問五

問六 人はそれぞれが違いうのだという認識を持つた上で、それぞれが、固有な文化を生き、独特の生活様式をつくり出すという価値観の転換をすすめること。

問七	ア	オ
----	---	---

【三】

問一	a ア	b エ	問二	ウ
----	-----	-----	----	---

問三	A イライラ	B ドキドキ
----	--------	--------

問四 とん汁をつぐことで、とん汁の嫌いな野村さんを困らせることができるから。

問五

問六 気になっという野村さんからサイン帳がまわってきたことと、とてもうれしく思っている。

問七

問八

問九	ウ	オ
----	---	---

平成二十二年 度

和歌山信愛女子短期大学附属中学校

入学試験問題 後期日程

# 作 文

受験上の注意

- 一 問題用紙の他に、解答用紙、下書き用紙があります。開始のチャイムが鳴ったら確認して始めて下さい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に記入して下さい。
- 三 終了のチャイムが鳴ったら、問題用紙の上に解答用紙と下書き用紙をのばしたまま裏返して置いて下さい。

受験番号

問 次の文章を読んで、筆者の考えをまとめ、「言葉」について感じたこと、考えたことを六〇〇字以内で述べなさい。

君は本を読むのが好きだろうか。

本は読まないけれども、マンガなら好きですっていう人が多いだろうな。あるいはマンガも読まないで、メールでチャットばかりしているって人もいるだろうな。それはちょっと問題だな。どうして問題かって、今回はその話だ。つまり人間にとって言葉とは何か、言葉がどんなに大事なものかという話だ。

君は、言葉が大事なものだなんて、思ったこともないだろう。話せば言葉は話せるし、誰も<sup>だれ</sup>が言葉を話しているし、つまり世の中言葉だらけだからだ。だから君もそうして一日中、友達とのメールのやりとりにかまけているわけだ。言葉が大事なものだと思っていれば、もっと節約して使うはずだものね。

でも、どうだろう。もしもそのメールの相手が、君にとって大事な人だったら、君は気をつけて、大事な言葉を使うはずだね。大事だと思っているその気持ち<sup>きもち</sup>が伝わるように、大事な言葉を使うはずだ。そして逆に、憎<sup>にく</sup>らしいと思っている相手だったら、乱暴な言葉を使って、わざと傷つけるようなことを言うだろう。言葉というものは、人を傷つけることができる<sup>できる</sup>と知っているからだ。実際に殴<sup>なぐ</sup>つたり<sup>たり</sup>の乱暴を<sup>を</sup>しなくても、言葉は十分に人を傷つけることができる。その力を君は知っている<sup>知っている</sup>ということだ。

だとしたら、そういう力をもつ言葉というものは、人間にとって、とても大事なものじゃないだろうか。扱<sup>あつか</sup>い次第<sup>し</sup>で、人を左右する力をもつ、すばらしくもあり、恐ろしくもあるものじゃないだろうか。どうして言葉は、そういう力をもっているのだろうか。

これはふと気がつく<sup>つく</sup>と、ものすごく不思議なことだ。たとえば、君は今この文章を読んでいる。どうしてその意味がわかるのだろうか。書かれている言葉の意味が、読んで「わかる」のはどうしてなのだろうか。いや、読むことだけじゃない。君は話そう<sup>そう</sup>と思<sup>おも</sup>っているそのことを、言葉で話すことができるし、話された言葉を聞いた相手は、どうしてかそのことがわかるんだ。

そして、本好きの君なら知っているはずだ。そこに書かれている言葉を読むと、その光景が、人物や動物や、いろんな国の物語が、ありありと目の前に浮<sup>う</sup>かんでくる<sup>くる</sup>ということ<sup>こと</sup>を。いったいこれはどうしてなのだろうか。行ったこともない国、見たこともない人や物、いやそもそもこの世に存在してさえいなかったりするそれらのものの姿や形を、どうして君は「見る」、思い浮かべることができるのだろうか。これは本当に不思議なことじゃないか。だって、目の前にあるのは、紙に印刷された、ただの活字の行列にすぎない。なのに、それを読めば、なぜそんなものがそこから出現<sup>しん</sup>することができるのだろうか。

これこそ、まさしく言葉の力だ。言葉というものが本来もっている、すばらしくも恐ろしい力なんだ。

だから、もしも君が自分の人生を大事に生きたいと思<sup>おも</sup>うなら、言葉を大事に使うことだ。つまらない言葉ばかり話して<sup>して</sup>い<sup>い</sup>れば、君は必ずつまらない人間になるだろう。つまらない人間の、つまらない人生、そんなのもいいのかな？

メールでおしゃべりばかりしてちゃだめだと、最初に言ったのはこういうわけだ。話された言葉は残らないけど、書かれた言葉は残っている。真実を語る言葉は、必ず残るものなんだ。何百年も前に書かれた言葉が残っていて、今それを読んで「わかる」というのは、言葉の奇跡<sup>せき</sup>そのものだ。そういう言葉に触<sup>ふ</sup>れるだけ、それだけ君は賢<sup>かしこ</sup>くなれるんだ。

問 次の文章を読んで、筆者の考えをまとめ、「言葉」について感じたこと、考えたことを六〇〇字以内で述べなさい。

(J Sゴシック)

問 次の文章を読んで、筆者の考えをまとめ、「言葉」について感じたこと、考えたことを六〇〇字以内で述べなさい。

(J Sゴシック太字)

問 次の文章を読んで、筆者の考えをまとめ、「言葉」について感じたこと、考えたことを六〇〇字以内で述べなさい。

(M Sゴシック)

問 次の文章を読んで、筆者の考えをまとめ、「言葉」について感じたこと、考えたことを六〇〇字以内で述べなさい。

問 次の文章を読んで、筆者の考えをまとめ、「言葉」について感じたこと、考えたことを六〇〇字以内で述べなさい。